

令和5年度 第1回 豊田市廃棄物処理施設等審査会 次第

日 時：令和5年9月28日（木）
午前9時00分～

場 所：豊田市役所 環境センター3階
環境部会議室

1 あいさつ

2 議 事

(1) (株)相建の産業廃棄物処理施設変更許可申請の概要について

(2) その他

3 現地調査

(配布資料)

○(株)相建の産業廃棄物処理施設変更許可申請の概要

別紙1 位置図

別紙2 航空写真

別紙3 計画平面図(変更前、変更後)

別紙4 設計計算書

別紙5 構造図

資料1 産業廃棄物処理施設の変更に伴う生活環境影響調査の概要

○(株)相建の変更許可申請及び生活環境影響調査の写しを綴ったファイル

株式会社 相建の産業廃棄物処理施設変更許可申請の概要

1 申請者

- (1) 名 称 株式会社 相建^{そうけん}
(2) 住 所 名古屋市東区東桜一丁目10番24号
(3) 代表者氏名 代表取締役 荒賀 剛志^{あらが たけし}

2 施設の設置場所

- (1) 設 置 場 所 豊田市篠原町石田苅21番始め24筆※
※自社所有13筆以外は借地
(2) 設 置 平成8年10月2日 設置
平成10年4月 埋立て開始
平成21年1月22日 大矢開発(株)から譲受け

別紙参照：別紙1 位置図
別紙2 航空写真

3 産業廃棄物処理施設の種類

安定型最終処分場

4 処理する産業廃棄物の種類

廃プラスチック類（自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む。）
、
金属くず（自動車等破砕物を除く。）、ガラスくず・コンクリートくず（工作物の
新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶磁器くず（自動車等破砕
物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む。）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む。）
以上4品目（水銀使用製品産業廃棄物を除く。）

5 変更の主な内容

	変更前	変更後
処理能力	埋立面積： 24, 174㎡ 埋立容量： 224, 485㎥	埋立面積： 31, 012㎡ 埋立容量： 345, 731㎥
位置、構造等の設 置に関する計画	豊田市篠原町石田苅21番始め24筆	豊田市篠原町石田苅21番始め24筆

別紙参照：別紙3 計画平面図（変更前、変更後）
別紙4 設計計算書
別紙5 構造図

6 埋立容量の状況

年度	埋立量	廃棄物の内訳		
		ガラスくず及び陶磁器くず	がれき類	廃プラスチック類
R4	32,297.05 m ³	6,815.2 m ³	23,205.55 m ³	2,276.3 m ³
総埋立量	181,746.5 m ³	現況測量を実施した残余容量 42738.5 m ³ ※		

※令和4年度産業廃棄物最終処分場実績報書から

7 廃棄物の処理工程等

① 展開検査 → ② 埋立（重機による転圧・敷き均し） → ③ 覆土、転圧

8 施設変更許可申請に伴う生活環境影響調査の概要

資料1 参照：産業廃棄物処理施設の変更に伴う生活環境影響調査の概要

9 他の法令に基づく手続

- (1) 砂防法 砂防指定地内行為許可 … 令和5年8月23日取得済
 (2) 森林法 林地開発許可 … 令和5年8月9日取得済

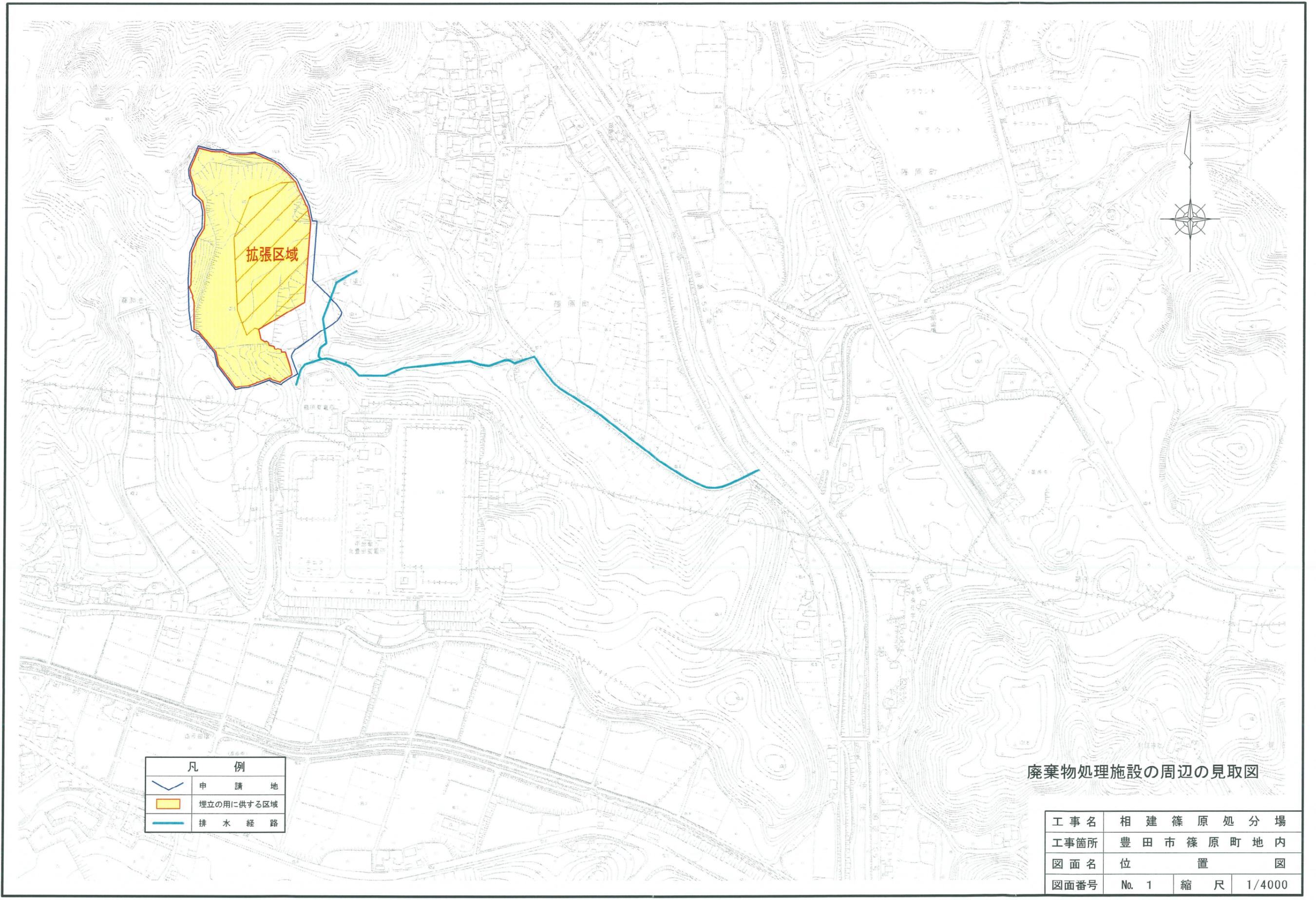
10 その他

- 豊田市産業廃棄物の適正な処理の促進等に関する条例に基づく紛争の予防及び調整に関する手続

事業計画等の縦覧	令和4年8月10日から9月8日まで実施	意見書提出なし
説明会の開催	関係地域に対して、令和4年9月24日に事業者が実施	<ul style="list-style-type: none"> ・何年間で埋立予定か。 →許可後7年埋立、3年間維持管理 ・今後の拡張計画はあるか。 →今回が最後の予定 ・埋立完了後の計画は →すべて植林予定 ・搬入拒否や出入り禁止措置はあるか →過去数件搬入拒否あり ・粉じん測定も毎年4月に測定するのか →定期的な測定はない

- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく手続

変更許可申請書の受理	令和5年4月5日
変更許可申請書等の縦覧	令和5年7月12日から8月10日まで実施中



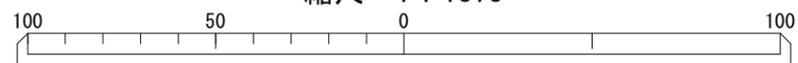
凡 例	
	申 請 地
	埋立の用に供する区域
	排 水 経 路

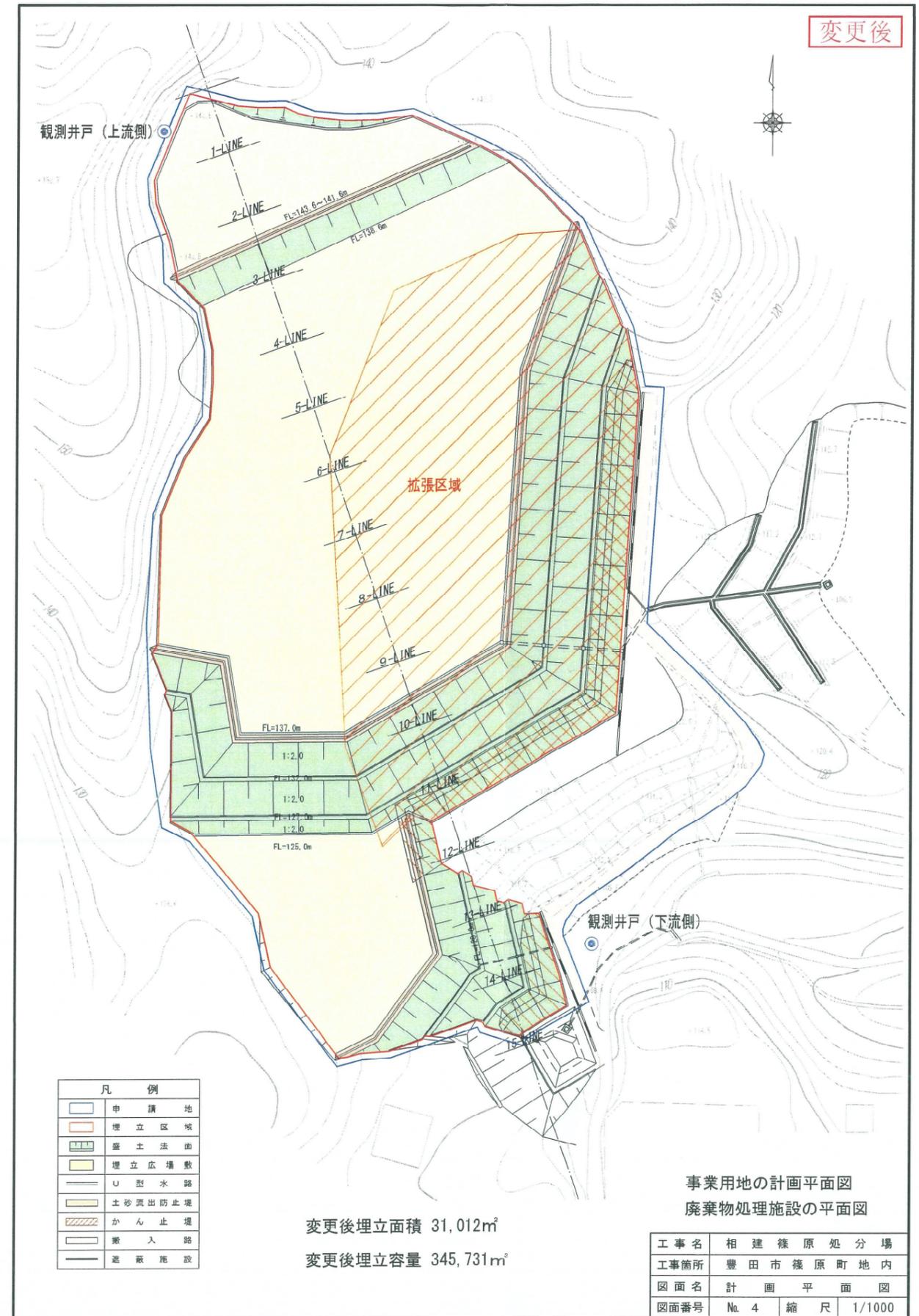
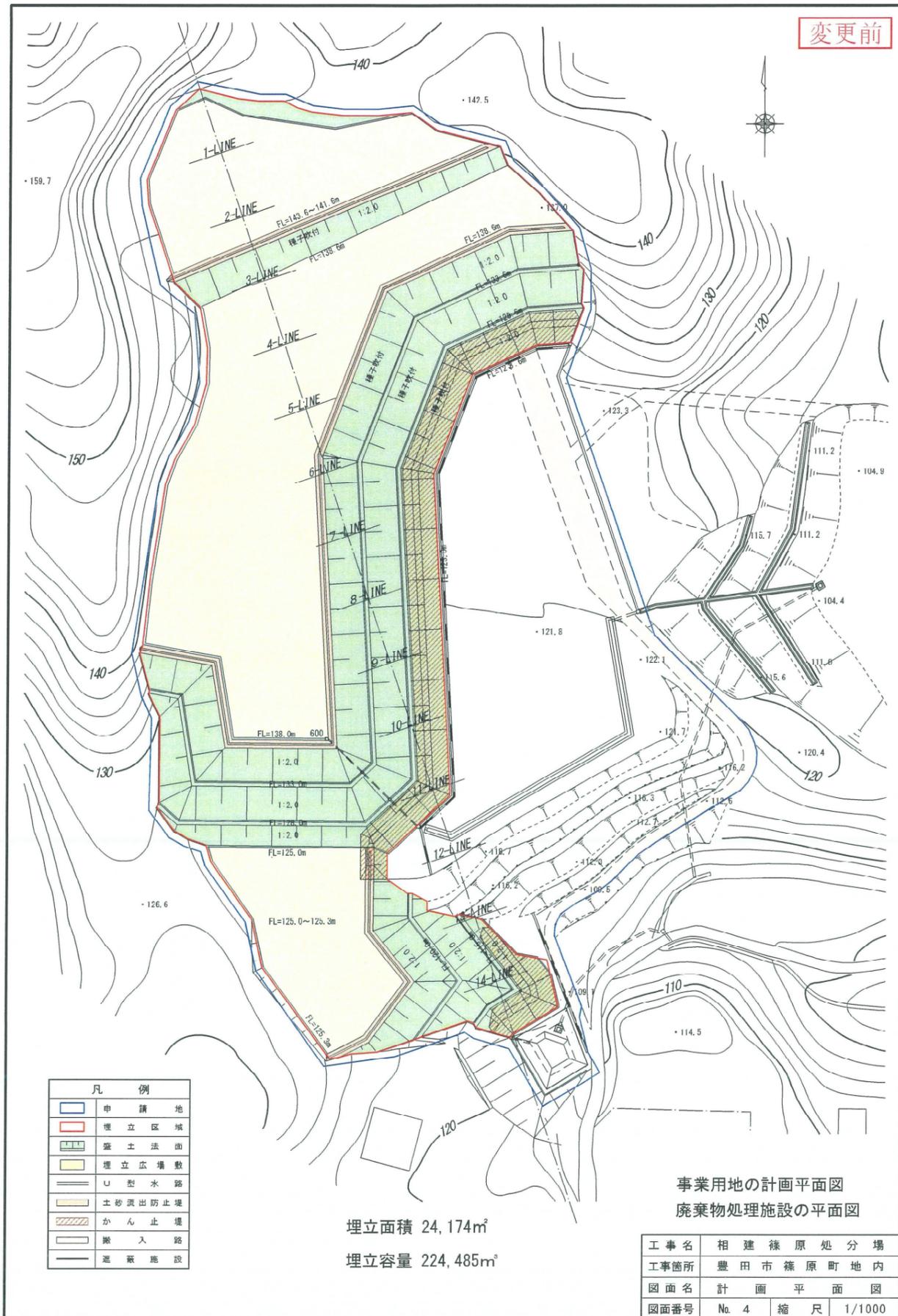
廃棄物処理施設の周辺の見取図

工事名	相 建 篠 原 処 分 場		
工事箇所	豊 田 市 篠 原 町 地 内		
図面名	位 置 図		
図面番号	No. 1	縮 尺	1/4000

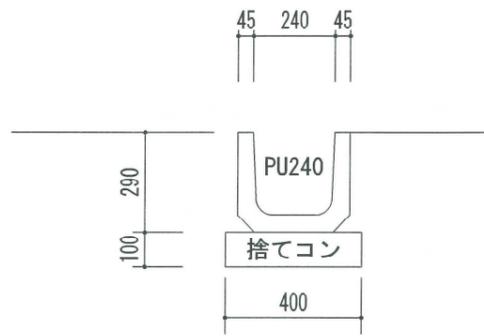


縮尺 1 : 1878

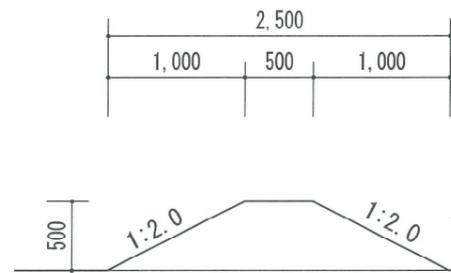




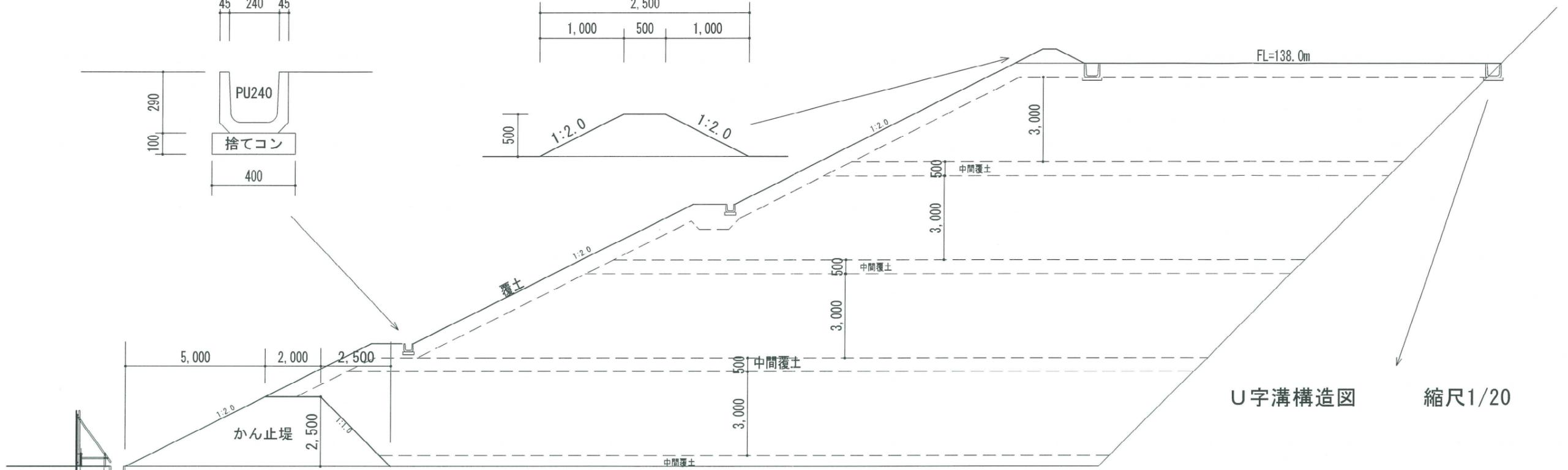
U字溝構造図 縮尺1/20



土砂流出防止堤構造図 縮尺1/50

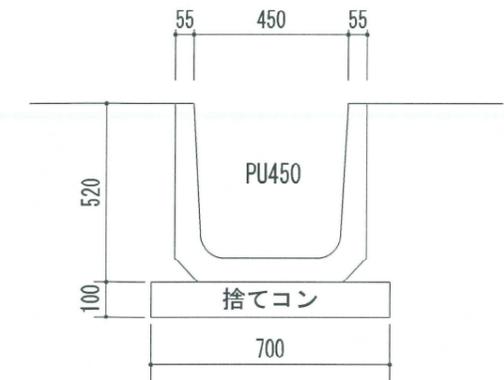
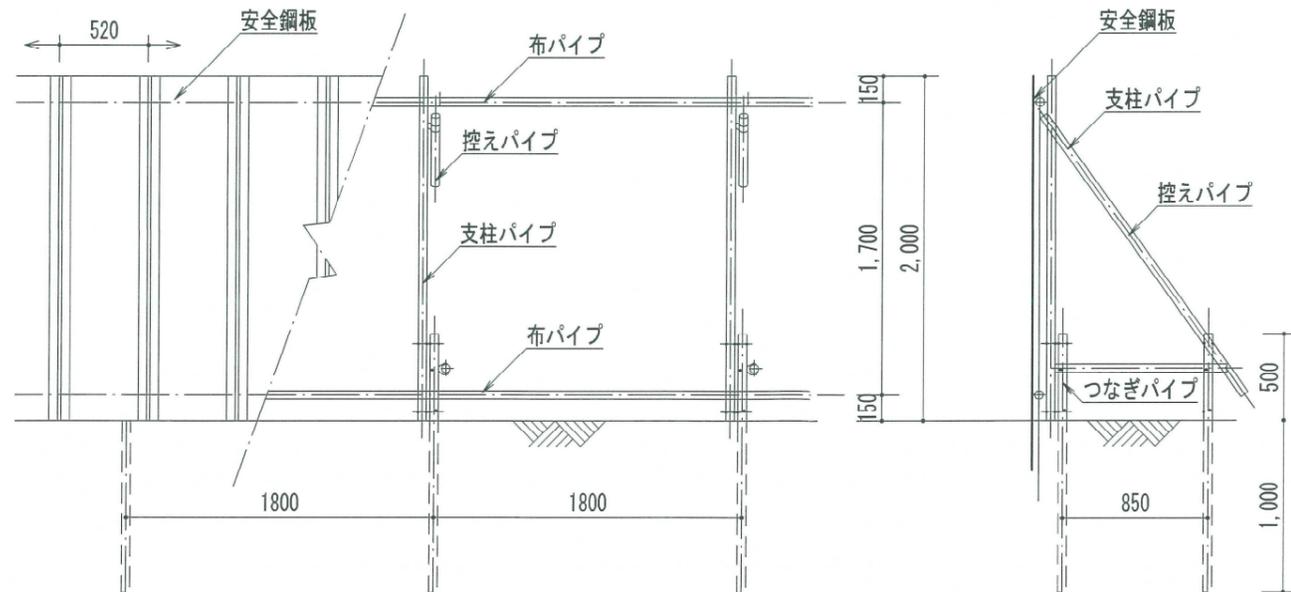


埋立場構造図 縮尺1/150



U字溝構造図 縮尺1/20

遮蔽施設構造図 縮尺1/40



廃棄物処理施設の構造図

工事名	相建篠原処分場		
工事箇所	豊田市篠原町地内		
図面名	構造図		
図面番号	No. 8	縮尺	

産業廃棄物処理施設の変更に伴う生活環境影響調査の概要

1 廃棄物処理施設の概要

施設の種類	安定型最終処分場
処理する産業廃棄物の種類	廃プラスチック類（自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む。） 、金属くず（自動車等破砕物を除く。）、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。石綿含有産業廃棄物を含む。)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。)以上4品目（水銀使用製品産業廃棄物を除く。）
施設の処理能力	埋立面積：24,174m ² → 31,012m ² 埋立容量：224,485m ³ → 345,731m ³
施設の処理方式	水平堆積法による埋立
施設稼働計画	埋立作業日：5～6日/週 稼働時間：8～17時(操業日のみ) 使用重機：2台 搬入台数：平均20台/日(操業日のみ) ※搬出入経路に変更はない
施設の構造及び設備	土盛堰堤：一段の高さ2.5m 外法勾配1:2.0 内法勾配1:1.0 囲い:高さ1.8m 延長152m 雨水排水路 延長2,031m

2 生活環境影響調査項目

「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成 18 年 9 月 環境省）に基づき実施

調査事項	生活環境影響要因		施設からの浸透水の 流出または浸出液処 理施設からの処理水 の放流(陸上埋立)	最終処分場 の存在 (陸上埋立)	施設(浸出 液処理設 備)の稼動	埋立 作業	施設(埋立 地)からの 悪臭発生	廃棄物 運搬車両の 走行
	生活環境 影響調査項目							
大 気 環 境	大気質	粉じん				○		
		二酸化窒素(NO ₂)						—
		浮遊粒子状物質(SPM)						—
	騒音	騒音レベル				○		—
	振動	振動レベル				○		—
水 環 境	水質	特定悪臭物質濃度また は臭気指数(臭気濃度)						
		生物化学的酸素要求量(BOD)	○注1)					
		化学的酸素要求量(COD) 注2)	—					
		全リン (T-P)						
		全窒素 (T-N)						
		ダイオキシン類						
	浮遊物質(SS)	—注1)						
その他必要な項目	○							
地下水	地下水の流れ		—					

※凡例 ○：調査・予測・評価を行う項目 —：調査対象から除外した項目 空白：調査を実施しない項目

注 1) 安定型最終処分場については、浸透水が表流水系に放流される場合に限る。

注 2) 化学的酸素要求量(COD)を含む浸出液処理水を、調査対象地域の水域に放流する場合、又は COD を含む浸透水が調
査対象地域の水域に放流される場合には、COD を調査項目として取り上げる。

3 生活環境影響調査の結果

(1) 大気質

ア 測定地点

測定は既存資料調査結果より 5.0m/s 以上の風が発生することが多くなる 4 月に実施した。また、測定地点は 4 月の最多風向が北東であることから計画地南西側敷地境界付近とした。

イ 粉じん濃度測定、風速階級別出現頻度の調査結果

下記表 1、2 のとおり

表 1：粉じん濃度（浮遊粒子状物質濃度）測定結果（令和 4 年）

測定日	測定結果 (mg/m ³)	廃棄物搬入台数	規制基準
4月2日(土)	0.013	10 t 車 9 台	・粉じん濃度には基準値等の定めはない。 〈参考〉 ・浮遊粒子状物質(SPM)に定められた 1 時間値の環境基準値は 0.20 mg/m ³
4月3日(日)	0.009	0 台	
4月4日(月)	0.028	10 t 車 15 台	
4月5日(火)	0.035	10 t 車 16 台	
4月6日(水)	0.018	10 t 車 15 台	
4月7日(木)	0.022	10 t 車 13 台	
4月8日(金)	0.035	10 t 車 19 台	

表 2：地上 1 m での風速階級別出現頻度調査結果（令和 4 年 4 月 2 日～ 8 日）

風速階級 (m/s)	0.4 以下	0.5～ 0.9	1.0～ 1.9	2.0～ 2.9	3.0～ 3.9	4.0～ 4.9	5.0 以上
出現頻度 (%)	22.6	35.7	33.9	7.1	0.0	0.0	0.0

ウ 予測結果及び評価

「風害と防風施設」(文英堂出版)によると、土壌粒子の飛散する程度は、風速及び土壌の付着水分量によって異なるが、乾燥土壌では地上 1 m の風速が 4～5 m/s で転動、5～6 m/s で跳躍、6～7 m/s で浮遊を開始するとされている。

ビューフォートの風力階級表（表 3）によると風力階級が 4 以上(風速 5.5 m/s 以上) になると砂ぼこりが立つとされており、これに準ずる風速（5.0 m/s 以上）になるのは、1 年間で 10.4 日（2.8%）であった。また、現地調査で得られた浮遊粒子状物質(SPM)濃度は、環境基準濃度を下回る結果であった。

以上のことから、計画施設稼働による生活環境に著しい影響を与える粉じんの発生はほとんど無いと予想される。

表3 ビューフォートの風力階級表

風力階級	風速 (m/s)	説明	
		陸上	海上
0	0.0から0.3未満	幹木、煙はまっすぐに昇る。	鏡のような海面。
1	0.3以上1.6未満	風向は、煙がなびくのでわかるが風見には感じない。	うろこのようなざざなみができるが、波がしらにあわはない。
2	1.6以上3.4未満	頭に風を感じる。木の葉が動く。風見も動き出す。	小波の小さいもので、まだ短いがはっきりしてくる。波がしらはなめらかに見え、砕けていない。
3	3.4以上5.5未満	木の葉や細い小枝がたえず動く。軽い葉が開く。	小波の大きいもの。波がしらが砕けはじめる。あわはガラスのように見える。ところどころ白波が現れることがある。
4	5.5以上8.0未満	砂ぼこりが立ち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。	波の小さいもので、長くなる。白波がかなり多くなる。
5	8.0以上10.8未満	葉のあるかん木がゆれはじめる。池や沼の水面に波がしらが立つ。	波の中ぐらいのもので、いっそうはっきりして長くなる。白波がたくさん現れる。(しぶきを生ずることもある。)
6	10.8以上13.9未満	大枝が動く。電線が鳴る。かさは、さしにくい。	波の大きいものができはじめる。いたるところで白くあわだつた波がしらの範囲がいっそう広がる。(しぶきを生じることが多い。)
7	13.9以上17.2未満	樹木全体がゆれる。風に向かっては歩きにくい。	波はますます大きくなり、波がしらが砕けてできた白いあわは、すじをひいて風下に吹き流されはじめる。
8	17.2以上20.8未満	小枝が折れる。風に向かっては歩けない。	大波のやや小さいもので長さが長くなる。波がしらの端は砕けて水けむりとなりはじめる。あわは朝りようなすじをひいて風下に吹き流される。
9	20.8以上24.5未満	人家にわずかの損害がおこる。(煙突が倒れ、かわらがはがれる。)	大波。あわは深いすじをひいて風下に吹き流される。波がしらはのめり、くずれ落ち、逆巻きはじめる。しぶきのため視程がそこなわれることもある。
10	24.5以上28.5未満	陸地の内部ではめずらしい。樹木がねこそぎになる。人家に大損害がおこる。	波がしらが長くのしかかるような非常に高い大波。大きなかたまりとなったあわは深い白色のすじをひいて風下に吹き流される。海面は全体として白く見える。波のくずれかたは、はげしく断片的になる。視程はそこなわれる。
11	28.5以上32.7未満	めったにおこらない。広い範囲の破壊を伴う。	山のように高い大波。(中小型船舶は、一時波の峰にみえなくなることもある)海面は、風下に吹き流された長い白いあわのかたまりで完全ににおおわれる。いたるところで波がしらの端が吹き飛ばされて水けむりとなる。視程は損なわれる。
12	32.7以上		大気は、あわとしぶきが充満する。海面は、吹き飛ばしたしぶきのために完全に白くなる。視程は、著しくそこなわれる。

出典：環境省環境生活環境影響調査報告書（平成10年9月 沖縄県 大臣官庁 環境省・リサイクル対策部）

(2) 騒音

ア 予測地点・範囲

影響が大きくなると想定される敷地境界線上及び直近の民家

イ 予測条件

埋立作業を予測地点寄りで作業を行った際に与える影響がどの程度か把握するものとした。

ウ 予測結果及び評価

寄与騒音レベルと将来騒音レベルの予測結果は表4のとおり。

表4：寄与騒音レベルと将来騒音レベルの予測結果

単位：dB

予測地点	寄与騒音レベル	現況騒音レベル(暗騒音)	将来騒音レベル	規制基準等	発生源からの距離
直近民家	53.8(Leq)	48	54.9(Leq)	55(Leq) (環境基準値)	135m
No.1	80.4(L5)	46(L5)	80.5(L5)	85(L5) (騒音規制法による 騒音規制値)	13.5 m
No.2	70.0(L5)	46(L5)	70.0(L5)		45.0 m
No.3	67.5(L5)	44(L5)	67.5(L5)		60.0 m

騒音レベルは全ての地点で規制基準値を満足するものと予測された。また、直近民家地点でも環境基準値を満足するものと予測された。また、重機稼働が2台の時を想定した予想結果であるが、2台稼働は臨時的なものであることから、予測結果は安全側である。

変更計画地周辺は、将来的にも生活保全対象となる建物等が建設できる地形を呈していない。

以上のことから、計画施設稼働による騒音が周辺地域の生活環境に与える影響は軽微であると評価する。

(3) 振動

ア 予測地点・範囲

影響が大きくなると想定される敷地境界線上

イ 予測条件

現地調査時に測定地点の近くで埋立作業が行われていた No. 1 地点で得られた振動レベルのうち L10 の最大値から予測計算を行った。

ウ 予測結果及び評価

寄与振動レベルと将来振動レベルの予測結果は表5のとおり。

表5：寄与振動レベルと将来振動レベルの予測結果（L10）

単位：dB

予測地点	寄与振動レベル	現況振動レベル	将来振動レベル	規制基準	発生源からの距離
No.1	46.0	30	46.1	75 (振動規制基準の特定 建設作業振動基準)	13.5m
No.2	38.0	30	38.6		45.0m
No.3	35.4	30	36.5		60.0m

振動レベルは全ての地点で規制基準値を満足するものと予測され、予測された将来振動レベルも現地調査で得られた振動レベルも、人が振動を感じる事ができるといわれる55dB未満であった。また、重機稼働が2台の時を想定した予想結果であるが、2台稼働は臨時的なものであることから、予測結果は安全側である。

以上のことから、計画施設稼働による振動が周辺地域の生活環境に与える影響は軽微であると評価する。

(4) 水質

ア 予測地点・範囲

水質の影響が大きくなると想定される計画地周辺

イ 予測手法

埋立方法、埋め立てる廃棄物の種類に変更はなく、計画施設の稼働による水質の変化はないと思われるため、現地調査や既存資料調査で得られた水質結果をもとに予測した。

ウ 予測結果及び評価

計画地周縁地下水分析結果及び浸出水分析結果は表6、7、8のとおり。

表6：周縁地下水分析結果（上流側）

単位:mg/L

分析項目	採水日 2019/7/18	採水日 2020/6/24	採水日 2021/7/12	環境基準
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/l 以下
金シアン 鉛	不検出 <0.005	不検出 <0.005	不検出 <0.005	検出されないこと。 0.01mg/l 以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/l 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/l 以下
アルキル水銀	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
PCB	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/l 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/l 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.1mg/l 以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/l 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 mg/l 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/l 以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/l 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/l 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/l 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/l 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/l 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/l 以下
クロロエチレン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02mg/l 以下

※分析結果に「<」が付されているものは定量下限値未満であったことを示す。

表7：周縁地下水分析結果（下流側）

分析項目	採水日	採水日	採水日	採水日	環境基準
	2019/7/18	2020/6/24	2021/7/12	2021/10/20	
カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/l 以下
全シアン	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05mg/l 以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/l 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/l 以下
アルキル水銀	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
P C B	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/l 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/l 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1mg/l 以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/l 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/l 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/l 以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/l 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/l 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/l 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/l 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/l 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/l 以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/l 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/l 以下
クロロエチレン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02mg/l 以下

表8：浸出水分析結果

測定月	分析項目 BOD						基準値
	平成31年/令和元年度		令和2年度		令和3年度		
4月	18日	1.5	10日	1.8	15日	5.5	20
5月	21日	1.9	15日	1.8	14日	1	
6月	14日	8.9	12日	1.9	18日	1	
7月	18日	1.1	17日	1.2	9日	1.8	
8月	9日	1.5	21日	2.0	6日	4.4	
9月	13日	1.9	11日	4.6	10日	3.6	
10月	11日	1.2	16日	1.8	15日	3.3	
11月	15日	1.7	13日	1.9	18日	3.1	
12月	13日	0.8	11日	1.8	8日	0.7	
1月	17日	1.3	15日	2.1	14日	1.1	
2月	12日	1.2	12日	2.6	9日	1.8	
3月	13日	1.3	5日	1.4			

既存資料調査及び現地調査の結果、計画地周縁の地下水は、上流・下流とも全ての項目で環境基準を下回っていた。浸出水のBODも基準値を超える月はなかった。

これらの結果より、計画地における地下水等の水質の状況は、環境基準等を超過することなく良好な状況が保たれているといえる。計画施設稼働により、埋め立てられる廃棄物に変更はなく、将来的に現状の水質が保たれると予想される。